

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2002-306366

(P2002-306366A)

(43)公開日 平成14年10月22日(2002. 10. 22)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テーマコード*(参考)
A 4 7 K 7/02		A 4 7 K 7/02	Z 2 D 0 3 4
D 0 4 H 1/40		D 0 4 H 1/40	Z 4 L 0 4 7

審査請求 有 請求項の数13 ○L (全 4 頁)

(21)出願番号 特願2002-6184(P2002-6184)

(22)出願日 平成14年1月15日(2002. 1. 15)

(31)優先権主張番号 0 1 0 0 4 0 9

(32)優先日 平成13年1月12日(2001. 1. 12)

(33)優先権主張国 フランス (F R)

(71)出願人 391023932
ロレアル
L O R E A L
フランス国パリ, リュ ロワイヤル 14

(72)発明者 ソフィー ヘレナ ヴエイレット
フランス国 92400 クルブヴォア, リュ
エディス カヴェル 47

(74)代理人 100109726
弁理士 園田 吉隆 (外1名)

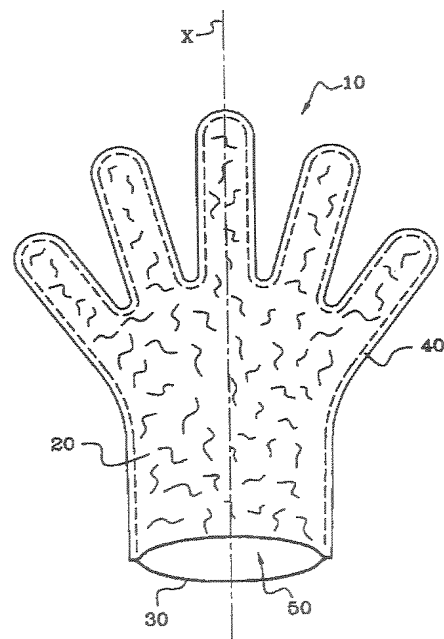
Fターム(参考) 2D034 AC00
4L047 AA07 AA14 AA21 CC16 DA00

(54)【発明の名称】 体の洗浄具

(57)【要約】

【課題】 安価に製造でき実用的な落屑用等の体の洗浄具を提供する。

【解決手段】 落屑用等の体の洗浄具において、第一の不織布材料シートと第二の不織布材料シートを具備させ、これら二つのシートを外周領域に沿って互いに接合して、使用者が手を入れることができる開放袋体を形成し、該袋体の第一の外面を、袋体の第二の外面の粗さと異なる粗さを持つように構成する。例えば、一方の面を落屑用に好適な粗面とし、他方の面をより柔らかい面とする。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 少なくとも第一の不織布材料シート（20）と第二の不織布材料シート（30）を有し、二つのシートが外周領域（40）に沿って互いに接合されて、使用者が手を入れることができる開放袋体が形成され、該袋体の第一の外表面が、袋体の第二の外表面の粗さと異なる粗さを持つ、体の洗浄具（10）。

【請求項 2】 袋体の第一の外表面は、落屑機能を示す粗さを有することを特徴とする請求項 1 に記載の洗浄具。

【請求項 3】 袋体の第二の外表面は、第一の面より粗さが少ないことを特徴とする請求項 2 に記載の洗浄具。

【請求項 4】 浸透性構造であることを特徴とする請求項 1 ないし 3 の何れか 1 項に記載の洗浄具。

【請求項 5】 袋体はその長軸の X 軸について対称であることを特徴とする請求項 1 ないし 4 の何れか 1 項に記載の洗浄具。

【請求項 6】 袋体は二つの親指部分を備えたミトンの形態であることを特徴とする請求項 5 に記載の洗浄具。

【請求項 7】 シートが形成されている不織布材料が、場合によってはセルロース型の天然ファイバーと組み合わせられた、ポリプロピレン、ポリエチレン及びポリエステルから選択される、ポリオレフィン等の、熱可塑性ファイバーの不織布であることを特徴とする請求項 1 ないし 6 の何れか 1 項に記載の洗浄具。

【請求項 8】 不織布材料の第一のシート（20）は 400 から 1000 μm 、好ましくは 450 から 600 μm の厚みを有していることを特徴とする請求項 1 ないし 7 の何れか 1 項に記載の洗浄具。

【請求項 9】 第二のシート（30）は 300 から 1000 μm 、好ましくは 450 から 600 μm の厚みを有していることを特徴とする請求項 1 ないし 8 の何れか 1 項に記載の洗浄具。

【請求項 10】 二枚のシートはその外周領域（40）に沿ってヒートシールされていることを特徴とする請求項 1 ないし 9 の何れか 1 項に記載の洗浄具。

【請求項 11】 シートの少なくとも一つに化粧用製品が含浸されていることを特徴とする請求項 1 ないし 10 の何れか 1 項に記載の洗浄具。

【請求項 12】 二枚のシートの各々に異なる化粧用製品が含浸されていることを特徴とする請求項 11 に記載の洗浄具。

【請求項 13】 シートの何れか又は両方に落屑用製品、保湿製品、鎮静製品及び／又はクレンジング製品が含浸させられていることを特徴とする請求項 11 又は 12 に記載の洗浄具。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、特に不織布材料からなる体の洗浄具、特に体の落屑用の洗浄具に関する。

【0002】

【従来の技術と発明が解決しようとする課題】 落屑用粒子、例えばポリエチレンパウダー又は石英もしくは木の実の殻の微粒子を含む化粧用製品が死亡皮膚細胞を取り除くために一般に使用されている。しかし、そのような化粧用製品はアプリケーションを伴わないで販売されているので、使用者は製品を塗布するために伝統的な洗浄用フランネル(flannel)、スポンジ又は自分の手を使用しなければならない。

【0003】 化粧用製品を塗布するために設計された手袋は既に存在する。例えば、米国特許第 4347931 号ではフワフワした含浸面を有するミトンが記載されている。そのミトンは繊維又は不織布のフワフワしたコーティングで部分的に被覆された不浸透性の熱可塑性フィルムから形成されている。このようなミトンは落屑作用により死亡皮膚細胞を除去することを可能にする粗面は有していない。更に、ミトンが含浸材料製である場合、ミトン全体への含浸は、使用者によるか又はその製造時に前もってなされるが、ミトンのそれぞれの面に製品を塗布することによって実施しなければならない。

【0004】 仏国特許出願公開第 2333482 号には、手を洗浄液に接触させないで任意の表面を洗浄するための手袋がまた記載されている。手袋の二つの面は異なる材料から形成され、例えば一面は摩擦面を、他方の面はバフ面からなる。個人衛生又はマッサージ用にそのような手袋を使用することが考えられている；しかし、そのような使用の間では、摩擦面がファブリック又は任意の種類の製品で置き換えられる。従って、そのような構造は落屑用には独立には使用できない。

【0005】 よって、本発明の目的の一つは、先行技術の欠点を有さないで、特に安価に製造でき実用的に使用できる落屑用具を製作することにある。本発明の一目的は、特に、更なる製品を付加する必要がなく、独立に使用することができる体の落屑用具を提供することにある。本発明の他の目的は、実質的にその全構造にわたって、化粧用製品を容易に含浸させることができる、体の落屑用具を提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】 本発明によれば、これらの目的は、少なくとも第一の不織布材料シートと第二の不織布材料シートを有し、二つのシートが外周領域に沿って互いに接合されて、使用者が手を入れることができる開放袋体が形成され、該袋体の第一の外表面が、袋体の第二の外表面の粗さと異なる粗さを持つ、体の洗浄具を製作することにより達成される。第一の面は、それが落屑機能を有するような粗さを有し、第二の面は第一の面より粗さが少ない、つまり第一のものより柔らかい表面を有する。よって、これは、二つの機能を有する手袋のような洗浄具であり、つまり、体の所定の領域に粗い面をあてがうことにより死亡皮膚細胞を除き、粗さが少ない面をあてがうことによりその領域を洗浄し又は拭き取

るという両方の作業を可能にする。そのような洗浄具は、粗い面が落屑作用を果たすことを可能にする粗さを有しているので、つまり、外面を皮膚上を移動させることによって皮膚の表面から死亡細胞を少なくとも部分的に除去することを可能にするので、落屑用化粧製品なしで使用できる。

【0007】異なった粗さの二枚のシート、つまりその表面状態は程度の差はあれ凹凸がある二枚のシートを選択するために、異なったシートの粗さを比較するように表面状態を測定する任意の方法が使用できる。測定される表面上を摺動させられ、表面レベルの様々な変化に追従するダイヤモンドチップを用いて例えば表面形状を測定することができる。得られた変動は、例えば形状の算術平均偏位を計算するためにコンピュータによって数学的に処理される曲線を定める。第二の表面よりも算術平均偏位が大きい第一の表面は第二の表面よりも大なる粗さを有している。粗さを測定する任意の他の手段により、粗さを比較できることは明らかである。好適には、洗浄具全体が浸透性構造を構成している。本発明において、「浸透性構造」とは、化粧用製品のような製品が第一のシート上にそれを含浸するように配されると、製品が第一のシートを通過して、第二のシートにしみこむ構造を意味する。一般には、それは水浸透性構造である。

【0008】よって、手袋に製品を予め含浸させておくことが望ましい場合、その浸透性のために製品が洗浄具全体に達することができるので、手袋の一つのシートの上に製品を塗布するだけでよい。このために、各シートに製品を配することが必要な、製品に対して浸透性でない構造の手袋と比較したとき、予め含浸された手袋を簡単かつ安価に得ることが可能になる。また、使用者が化粧用製品を加えることを望む場合には、それが落屑、保湿、鎮静又はクレンジング機能の何れの機能を持つ製品であれ、使用者はそれを何れかのシートに塗布するだけでよい。それで製品を二枚のシートに広げることができるからである。一方、使用者が一枚のシートの上に製品を付与することを望む場合、手袋内に一方の手を入れたときに製品を塗布すればよい。

【0009】好適には、袋体はその長軸のX軸について対称である。よって、使用者は右手か左手の何れかを挿入でき、袋体のシートは何れかを手の内側に保って、それを体にあてがう。よって、洗浄具を使用することが簡単で、その機能の何れについても実用的である。特定の一実施態様では、袋体は二つの親指部分が設けられたミトンの形態である。よって、袋体は、使用者がそれを体にあてがう場合、使用者の手の上で回る傾向はない。一変形例では、袋体は五つ指の対称手袋の形態である。シートが形成されている不織布材料は、場合によってはセルロース型の天然ファイバーと組み合わせられた、ポリプロピレン、ポリエチレン及びポリエステルから選択される、特にポリオレフィンの、熱可塑性ファイバーの不織

布である。

【0010】第一のシートは400から1000 μm 、好ましくは450から600 μm の厚みを有している。第二のシートは、より柔軟であり、300から1000 μm 、好ましくは450から600 μm の厚みを有している。よって、不織布材料により、比較的薄いシートを使用し、少ない量の材料のみから手袋を形成することが可能になり、よって安価である。このような手袋は、例えば、使い捨て可能とできる。更に、このようにして形成された手袋は比較的高張らず、例えば化粧用製品を含む容器に配される外側包装体中に容易に挿入することができる。好適には、二枚のシートはその外周領域に沿ってヒートシールされる。そのような接合物は製造が簡単で比較的堅牢である。

【0011】好適な一実施態様では、シート of の少なくとも一つに化粧用製品が含浸されている。好適には、二枚のシートの各々に異なった化粧用製品を含浸させることが考えられる。例えば、シート of の何れか又は両方に落屑用製品、保湿製品、鎮静製品及び／又はクレンジング製品を含浸させることを考えることができる。二枚のシートの各々に異なった製品が含浸させられる場合には、二つの製品の混合を防ぐために、手袋の各シートに含浸させる前に、例えば非浸透性材料のシートを袋体の内側に導入することができる。上述した構成とは別に、本発明は、添付図面を参照して非限定的な実施形態によって以下に説明する所定数の他の構成からなる。

【0012】

【発明の実施の形態】一つの図面は、その長軸のx軸について対称である五つ指の手袋10を示している。手袋はまた簡単な袋体（エンベロープ）、ミトン又は二つの親指部を持つミトンの形状でありうる。対称性により、手袋を左手か右手の何れでも使用することが可能である。対称性はまた手袋を逆にすることを可能にし、使用者は、手の上で手袋をひっくり返して手袋の第一のシートを、ついで第二のシートを手の内側に容易に配し、及び／又はその逆にして、体に連続的にあてがう。袋体10は二枚の不織布材料シート20、30から形成されている。

【0013】第一のシート20は、落屑処理を可能にする摩擦機能を有しており、熱可塑性合成ファイバーの不織布からなる。ファイバーは、例えばポリエステル、ナイロン、あるいは好ましくはポリオレフィンタイプである。ファイバーは場合によってはセルロースタイプの天然ファイバーと組み合わせることができる。ポリプロピレン熱可塑性細糸（フィラメント）の摩擦層がファイバー上に付着させられている。手袋の外面を構成するシート表面には好適にはエンボス加工（embossing）が施されている。あるいは、インクの液滴又は任意の他のタイプの凹凸で覆われ、落屑作用を確保するために十分な粗さを得ることを可能にする不織布材料を使用してもよい。

摩擦シート 20 は $450\mu\text{m}$ の厚みを有している。例えば、Ahlstrom Dexter & Paper 社により Hydraspun (登録商標) 8545 の参照名で市販されている不織布シートが使用される。

【0014】第二のシート 30 は、死亡細胞を落屑後に除去することを可能にするクレンジング機能を有しているが、また熱可塑性合成ファイバーの不織布材料からなる。ファイバーは、例えばポリオレフィン、ナイロン、又は好ましくはポリエステルタイプである。このようなシートは非常に柔軟な表面状態を有している。シート 30 は $560\mu\text{m}$ の厚みを有している。Ahlstrom Dexter & Paper 社により Hydraspun (登録商標) 8552 の参照名で市販されている不織布シートが例えば使用される。二枚のシート 20 及び 30 は実質的にその外周に対応するライン 40 に沿ってヒートシールされている。二枚のシートは同じ基体を有しているので、熱溶着が簡単にできる。しかし、例えば接着剤接合によるような任意の他の手段によって接合体を製作することもできることは明らかである。

【0015】その使用の間、使用者は製品を付加しないで手袋を使用することができる。使用者は最初に摩擦シートをあてがって死亡細胞を取り除き、ついで、手の上で手袋をひっくり返して、落屑処理をした表面をより柔軟なシートを使用して拭き取る。使用者が落屑用製品を付加することを望む場合、使用者は何れかのシートにそれを配することができる。使用者はまた、摩擦シートをあてがった後、好ましくは柔軟なシートにクレンジン*

*グ、保湿又は鎮静製品を配することができる。よって、単一の洗浄具によって、使用者は落屑処理を実施し、ついで死亡細胞を除去するように自身で拭き取り、同時に保湿する。

【0016】本発明の特定の一実施態様では、包装される前に、手袋には化粧用製品が予め含浸されている。落屑用製品は例えば第一の摩擦シート内に導入される。保湿製品はまたより柔軟なシートに添加されうる。ついで手袋を可撓性袋又は段ボール紙又はプラスチックスリーブタイプのパッケージ、あるいは化粧用製品の容器に位置させられうるラベルタイプのスリーブの形態に包装される。手袋に予め含浸処理がなされる場合、手袋に含まれる製品に対して浸透性ではないパッケージ、好ましくはプラスチックパッケージが好適に使用される。

【0017】上述の詳細な説明では、本発明の好適な実施形態について説明した。特許請求の範囲に記載した発明の精神から逸脱しないでこれら実施形態に変更を施すことができることは明らかである。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明に係る落屑用洗浄具の一実施形態の斜視図である。

【符号の説明】

- | | |
|----|--------|
| 10 | 手袋 |
| 20 | 第一のシート |
| 30 | 第二のシート |
| 40 | 領域 |

【図 1】

